

CNA Report Japan

Newsletter focused on
Collaborative conferencing

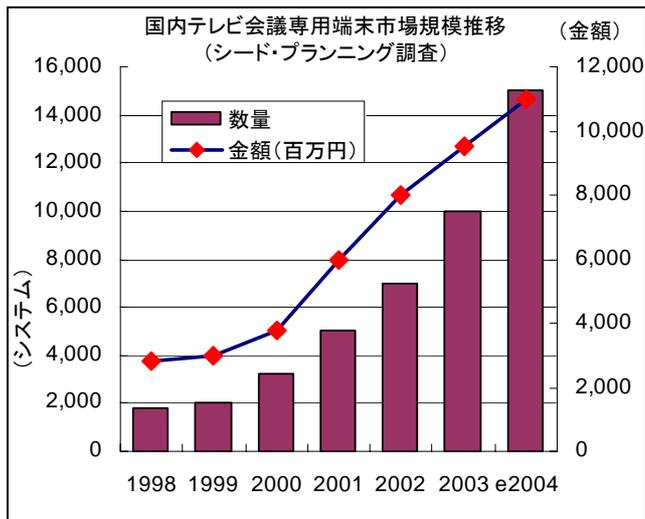
Conferencing News & Analysis-- Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol. 6. No. 10 2004 年 6 月 30 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集: 橋本啓介 k@cna.jp Copyright 2004 Kay Office All rights reserved.

ニュースダイジェスト

■ シード・プランニング調査書発刊、2003年テレビ会議市場1万台



* シード・プランニング調査による市場数値。
* e2004・・・2004年見込み。

IT 関連等の市場調査コンサルティングを行う、シード・プランニング(東京都台東区)は、7月中旬にテレビ会議、ウェブ会議市場の調査報告書「テレビ会議から Web 会議への市場変化と業界動向」を発刊する。その調査書によると、日本国内のテレビ会議市場は、2002 年 7000 台レベルだったのが、2003 年 1万台に達し、1998 年以降市場は右肩上がりで拡大していると報告する。

また、国内 73 社の参入企業のうち 43 社がパソコンベースの会議システム、23 社が ASP サービス、12 社が専用端末のメーカーなどで、インターネットブロードバンド化の浸透を反映してか、半数以上をパソコンベースの会議システムが占める。

同調査報告書では、テレビ会議、ウェブ会議などの製品動向(発売時期、性能、機能対応状況など)、ベンダー動向(取扱製品など)、市場規模動向(テレビ会議、PC タイプ、音声会議、ウェブカメラ、メーカーシェア、国内外市場規模予測)、業務用ユーザー動向(ユーザーの問題点、利用状況など)などがまとめられている。A4版 120 頁。定価は、

99,750 円(消費税込み)。現在予約受付中で、予約販売価格は、93,450 円(消費税込み)となっている。

同社では、「テレビ会議/Web 会議のビジネス利用実態とコラボレーション利用の可能性」と題した調査レポートの発刊も予定されており、その調査書では、ビジネスマン 500 名のテレビ会議、Web 会議、音声会議の利用状況、評価、今後のアプリケーション共有、データリモート等のコラボレーションの可能性を調査した。A4 版 120 頁。168,000 円(消費税込み)。詳細について:

<http://www.seedplanning.co.jp/finder.asp?r=cnae051022>
シード・プランニング <http://www.seedplanning.co.jp>

■ ポリコム、液晶モニター一体型テレビ会議システム「VSX3000」を日本市場にリリース



ポリコム(東京都千代田区)は、5 月 26 日液晶モニター一体型テレビ会議システム「VSX3000」を日本市場にリリースした。VSX3000 は、テレビ会議システムのコーデック、カメラ、マイク、スピーカー、また、PC モニターとしても使用できる、17 インチ LCD ディ

スプレーが一体となったオールインワンタイプのテレビ会議システム。(写真上は **Polycom VSX3000**)

機能的には、「VSX7000」相当(ポリコム 奥田社長)。IP モデル(H.323)と、IP/ISDN(H.320)デュアルモードタイプのモデルと 2 機種を揃える。IP では、2Mbps まで、ISDN では、512kbps までの接続帯域をサポートする。共通的な機能として

は、セキュアな環境でのテレビ会議を実現する AES 暗号化方式や、最新の映像圧縮符号化方式である H.264 をサポート。H.264は、従来の符号化(たとえば、H.261 や H.263 など)よりも効率的な映像のエンコード/デコードが行え、より少ない帯域でより高画質を可能とする符号化方式で最近 ITU-T で勧告化された。そして、Polycom ProMotion をサポートすることにより、インターレス方式によるテレビに匹敵する画質がデスクトップテレビ会議システムでも可能となった。

また、会議では重要な要素である音声品質は、標準の音声符号化方式以外に、ポリコム独自の Siren 14 をサポート。Siren 14 は、音声帯域に 14kHz を利用するため、その分高品質な音声での会話がおこなえる。本体には、14kHz に対応した高性能マイクロホンとハイファイスピーカーを内蔵。

加えて、オプションで内蔵 MCU (オプション、4拠点までダイヤルイン、ダイヤルアウトの両方をサポート。)を組み込むことができる。加えて、データ共有機能(デュアルストリームで People+Content データを受信することが可能。データ送信機能は、今年の第四四半期にオプションとして提供予定。)をサポートしているため、エクセルやパワーポイントなどのデータを共有した会議を行える。

Polycom VSX3000 ポジショニング

	Personal	Group	Installation
High End	VSX3000	VSX7000 Viewstation EX	VS4000 iPower9000 Viewstation FX
Low End	ViaVideo	Viewstation SP	

*ポリコム発表資料によりCNAレポート・ジャパンにて作成。

VSX3000 のその他の機能としては、デュアルモニターエミュレーション(1台のモニターに自分側と相手側の映像を表示することができるため、ディスプレイを新たに追加するスペースとコストを節約)、ユーザーインターフェイスのカスタマイズが容易に行える、色分けされているファンクションボタンなどでリモートコントロールによる簡単な操作、日本語を含む 11 カ国語の言語に対応、などがある。

この VSX3000 は、ポリコムが提供する、WebOffice 会議ポータルと統合することで、参加者リストから相手や相手端末の状況を確認してボタンひとつで即座にテレビ会議を開始することができる。WebOffice 会議ポータルとは、ポリコムが提唱する、音声、ビデオ、データ会議を一つに統合するソリューション。ポリコムのそれぞれの端末製品、多地点会議装置、管理システムはその WebOffice を構成するコンポーネンツとして機能する。

VSX3000 のメーカー希望小売価格は、IP モデルが、798,000 円(税抜き)、ISDN モデルが、105 万円(税抜き)。

5月26日都内ポリコム本社で行われた VSX3000 記者発表会で、同社社長 奥田 智巳氏によると、VSX3000 の 2004 年度下半期の販売予測は、1400 台。2005 年度年間では、3600 台を予想しており、既に R&D 関係で数百台規模での引き合いが来ているという。

また、記者の質問に対して SIP に対する言及もあり、「SIP は、現段階では、具体的なユーザーのニーズははっきりしていないが、今の SIP の動きはテクノロジーオリエントな動きと言えるのではないか。ポリコムとしては、今秋には、SIP が製品に乗ったかたちになる予定。」とのことで今後今年の後半に向けてさまざまな製品等のリリースが同社から予想される。その一つと思われるが、6月25日大塚商会で開催されたテレビ会議セミナーで奥田氏は、画面レイアウトを簡単に変更できる

(次頁へ続く)

<広告> トータル・ビデオ会議システム



<広告> イスラエル VCON のテレビ会議製品情報(日本語): 日本地方自治体等導入実績あり、PC タイプのテレビ会議システムからセットトップタイプのものから MXM メディアエクステンジサーバー、MCU、ストリーミング、開発ツールキットなど幅広いニーズに対応。テレビ会議メーカー、大手 5 社に入る。
H.323 対応 PC 用会議システム vPoint
<http://www.vcon.com>

VCON <http://www.vcon.com>

Click&View の説明の中で、マイクロソフトの Outlook などと連携をしたソリューション、「Polycom Conference Suite」を紹介し、近々日本市場で発表される予定と説明した。(北米リリース関連:CNAレポート・ジャパン Vol.6 No.8 2004 年 4 月 30 日号)

■タンバーク、MPS 多地点接続装置リリース



TANDBERG MPS

ノルウェーのテレビ会議メーカー タンバーク社が、テレビ会議と音声会議を混在処理できる多地点接続装置、Media Processing System(MPS)をリリースした。一般企業からサービスプロバイダーまで幅広いニーズに対応する、高いスケーラビリティを持つ。プラグ&プレイ技術で各種設定は簡単。今後一般企業だけでなく、通信サービス系などのサービスプロバイダー向けなどに販売していく。

MPSは、テレビ会議端末 48 台 (ISDN/IP/V.35、~2Mbps)、電話会議端末 48 台を同時に収容し合計 96 拠点間でのテレビ会議、電話会議端末混在の会議に対応する。テレビ会議における映像符号化は、H.261、H.263、H.263+、H.263++、音声符号化では、G.711、G.722、G.722.1、G.728 に対応。

H.264、動画解像度は、NTSC 系で SIF や 4SIF に、H.264 接続においても画面分割表示、話者音声切り替えなどに対応。参加拠点するに応じた自動分割画面変更及び解像度の最適化などがおこなえる。PC の画像については、XGA、VGA 及び SVGA をサポート。

また、プレゼンテーション関係では、DuoVideo や H.239 に対応するため、H.239 に対応した他社テレビ会議端末とのプレゼンテーション画像のやりとりも可能。

さらに、AES や DES の暗号化、ネットワークが不安定でも

会議の継続が可能な、Downspeeding 機能にも対応している。

その他では、管理者用パスワードなどのセキュリティ機能、会議のウェルカムメッセージのカスタマイズ、QoS などのネットワーク機能、HTTP や XML、SOAP、Telnet 及び FTP 経由で内蔵 Web サーバーを利用した管理、Tandberg Scheduler、マイクロソフト Outlook、IBM Lotus Notes などによる会議予約機能、などがある。

高さ 39.9cm、幅 44.4cm、奥行 37.1cm、重量 20kg、消費電力は 800W。

同社では、合わせて、「TANDBERG Management Suite (TMS) 9」や「ビデオシステムソフトウェア」なども発表した。「TANDBERG Management Suite (TMS) 9」では、マイクロソフトの Outlook や IBM の Lotus Notes を使った会議予約機能、マイクロソフト Live Communications Server を使ったインスタントメッセージング機能をサポートすることにより、テレビ会議ネットワークの管理運営を簡単にする。また、「ビデオシステムソフトウェア」では、DuoVideo や H.239 に対応、シングルモニターに画面並列表示する機能、H.235 v3 セキュリティ対応などを含む。

■マクロメディア、日本語版 Macromedia Breeze の販売開始

マクロメディア(東京都港区)は、6 月 7 日より Macromedia Breeze の販売を開始した。Macromedia Breeze は、Flash 技術をベースにしたウェブを使ったコミュニケーションソリューション。Macromedia Flash Player をパソコンにインストールしていればすぐに利用できる。Macromedia Flash Player は、全世界インターネット利用者の 98%にあたる 4 億 8100 万人がすでにインストールしているという。また、マイクロソフトパワーポイントをコンテンツ制作ツールとしてそのまま利用できる。

Macromedia Breeze は、「ウェブ会議ソリューション」、「ウェブプレゼンテーション」、「ウェブトレーニング」の 3 種類のソリューションからなる。「ウェブ会議ソリューション」は、ホワイトボード共有、パソコン画面共有、アプリケーション共有などを会議参加者の顔を見ながら行うことができる。また会議録画が行え、見たいときに見たい部分のみを再生することが可能。

「ウェブプレゼンテーション」は、マイクロソフトのパワーポイントのスライドにナレーションを追加、Flash に変換し、ウェブユーザーに音声と画像で公開が可能。プレゼンテーション自体は

検索可能なライブラリに保存され簡単に検索配信が可能。

「ウェブトレーニング」は、マイクロソフトのパワーポイントを利用して、e ラーニング教材の製作、選択形式のクイズを追加し、Macromedia Flash として配信することができるもの。クイズ正解率、受講状況などのレポート作成が可能でトレーニングの有効度を測ったりすることが可能。制作された教材はライブラリに保存が可能。

企業内での導入であれば、サーバライセンスで提供されるが、ホスティングサービスを利用すればサーバ設置などを行う必要がなく簡単に利用開始できる。

■トーマンサイバービジネスとアイピー・ネット、テレビ会議と VoIP 連携ソリューション、Visual Nexus アプライアンス製品共同開発

トーマンサイバービジネス(東京都港区)とアイピー・ネット(東京都江東区)は、H.323 に対応した PC ベースでの IP テレビ会議システムである Visual Nexus と、沖電気工業(東京都港区)が開発した企業向け IP 電話製品群「IPstageR シリーズ」を連携させたソリューションを共同で開発し、「Visual Nexus VoIP 連携ソリューション」として販売開始する。

トーマンサイバービジネスの Visual Nexus は、2003 年 6 月に販売を開始したが、テレビ会議を高品質映像音声で行うためには、高速の回線帯域が必要となり、ネットワークとして低速回線の拠点での導入が難しかった。このため、この連携ソリューションにより、高速の回線が準備できる拠点については、Visual Nexus のテレビ会議を導入し、低速回線の拠点では、「IPstage シリーズ」の VoIP ゲートウェイを利用して、音声でも会議に参加できる仕組みを提供する。

両社は、導入や運用・保守を簡便化し、性能自体をより高レベルに引き出すために、Visual Nexus をアプライアンス製品化し、「VOCS シリーズ」として、アイピー・ネットから7月1日より販売開始する。アプライアンス製品とは、ソフトウェアがプリインストールされており、各種必要なセッティングも施されているハードウェアで特別な操作なしですぐに使用開始が可能な製品。また、バックアップ機能を標準装備しているため、障害復旧時にユーザーID などユーザー固有の情報を簡単に戻すことができ復旧時間の大幅短縮が可能。

VOCS シリーズは、Visual Nexus のコアコンポーネントを内蔵した H.323 テレビ会議サーバーで、音声や映像の切り替

え処理や会議室の作成、予約、編集などの運用管理も行える。また、ゲートキーパーを内蔵。

VOCS シリーズは、2 機種ある。同時 10 ユーザーまで接続可能な VOCS1000 と、同時 50 ユーザーまで接続可能な VOCS5000 を用意する。VOCS5000 は、サーバー同士を連結するカスケード接続により、最大 300 ユーザーまでの同時接続に対応する。アイピー・ネットは、年間 100 セットの販売を目標とする。

トーマンサイバービジネスとアイピー・ネットは、2003 年 9 月に戦略的販売提携を行っている。今回の連携ソリューション、VOCS シリーズは、共同開発の成果になる。

■NTT アイティ、「MeetingPlaza 電網会議システム」にメッセージャーオプションを追加、販売開始

NTT アイティ(神奈川県横浜市)が提供するウェブ会議ソリューション「MeetingPlaza 電網会議システム」に、新たに開発した、「MP メッセージャー」をオプション機能として追加。6 月 18 日より販売を開始した。

「MP メッセージャー」は、「MeetingPlaza 電網会議システム」にオプションとして付加し提供される機能で、会議の開催や会議室の入室をより簡便にする機能。

会議主催者は、タスクトレイに表示されるプログラムから参加メンバーの在席を確認することができ、迅速な会議参加依頼の送信が可能。会議参加を依頼されたメンバーは、会議参加承認をワンクリックするだけで、即座に会議室に入室、会議を行うことができる。

クライアントソフトは、Windows98/NT.4.0/2000/ME/XP などの OS に、また、サーバーは、Linux Kernel 2.4.20 以降に対応する。

最小構成例で、最大 16 人まで同時接続が可能な「MeetingPlaza 電網会議システム会議基本パッケージスタンダード(16)」、「MP メッセージャーオプション」、「MP メッセージャーインストール費」で、155 万円から。

販売目標としては、初年度(平成 16 年度)200 システム、次年度 300 システム。売上は、初年度 2 億円、次年度 3 億円を見込む。MeetingPlaza は 600 社以上が利用している。(MeetingPlaza 関連:CNAレポート・ジャパン Vol.6 No.7 2004 年 4 月 15 日号)

■NTT ビズリンクの多地点接続サービス FOMA へ対応、WarpVision サービスを提供開始

NTT ビズリンク(東京都文京区)は、光ブロードバンド環境で、相手の表情や声、場の雰囲気までもリアルに伝えることができる高品質な映像コミュニケーションサービス WarpVision サービスの提供を4月1日から開始、また FOMA の携帯テレビ電話と、ISDN 及び IP テレビ会議の相互接続を可能とする多地点接続サービスを5月25日から開始した。

WarpVision サービスは、光ブロードバンド環境を使った高品質なテレビ会議サービスで、提供内容としては、(1) MPEG2 の 2Mbps~8Mbps の帯域(最大 30 フレーム秒)を使った標準テレビ並みの映像品質が可能な、1対1での接続、(2) MPEG2 の 2Mbps~3Mbps の帯域(最大 30 フレーム秒)を使った、最大 5 拠点までの多地点接続、の2種類となっている。

特長としては、(1)最大 VGA サイズ(640x480 ピクセル)の高画質、(2)グループユーザーを簡易なインターフェイスで表示、(3)コーディング部分において低遅延(0.2 秒)を実現、(3)MPEG オーディオ LayerII により CD 並みの音質、(4)MPEG2 レベルでパケットの再同期処理の実現、などがある。

費用的には、初期費用が1ID 毎 15,000 円(税抜き、以下同)、月額基本料が1ID 毎 15,000 円。それ以外に、利用に応じての料金プランが従量プランから 200 時間プランまでの 6 種類。例えば、従量プランは、利用者毎に分毎に 30 円の利用料金、5 時間プランは、7,500 円、20 時間プランは、27,000 円などとなっている。

具体的サービス提供方法については、(1)FOMA の携帯テレビ電話より ISDN テレビ会議の多地点接続サービスへ参加する方法、(2)IP テレビ会議の多地点接続サービスへ参加する方法、(3)IP-ISDN 相互接続を行っている多地点会議へ参加する方法の3種類がある。1会議あたり FOMA 携帯テレビ電話の最大接続数は、4台まで。FOMA からの映像伝送速度は、64kbps となる。

費用的には、利用時間に比例して課金する「時間制」と、1ヶ月まとめでの固定料金制である「月額制」となっている。時間制では1FOMA 端末の1時間当たりが 5,000 円、月額制では、1FOMA 端末1ヶ月あたり7万円となっている。

同社で接続性の確認が取れている FOMA 端末は、P2102V、F2102、N2102V、N900i、P900i、SH900i、F900i。それ以外については同社へ問い合わせとなっている。

同社が考える想定される利用方法については、(1)固定回線を敷設できないような工事現場、災害現場からの会議参加、映像配信、(2)出張先などテレビ会議設備がないような場所からの会議参加、(3)イベントで会場などを移動しながらの映像配信、テレビ会議中継など。

同社では、NTTフェニックス通信網として平成9年9月から、また平成15年5月からはNTTビズリンク ヴィジュアル・コミュニケーション事業部としてサービス提供しているが、平成16年5月現在 2,200 を超える法人会員企業に利用されている。ISDN テレビ電話やテレビ会議システムを最大 2000 ヶ所同時に接続することができるサービス提供能力がある。

平成13年11月からは、VPN ネットワークに対応した IP サービスの追加、そして平成15年10月からはNTT東西のフレッツ網を使ったフレッツ IP 多地点サービスを開始している。

■JENS、Webコラボレーションサービスを4月から提供開始

元米 AT&T との合弁会社で、現在日本テレコム(株)の 100%小会社である、JENS(東京都港区)は、今年4月から「JENS Web コラボレーションサービス」を提供している。「JENS Web コラボレーションサービス」のプラットフォームエンジンとしてウェブ会議ソフトウェア「WebArrow(ウェブアロー)」を利用する。WebArrow はカナダ Namzak Lab 社と、日本のナムザック・ジャパン(東京都千代田区)が開発販売している。

このサービスでは、プレスリリースから引用すると、接続時に双方のパソコンに専用 URL からソフトを自動的にダウンロードして実行し、インターネットを介してパソコンのデスクトップ画面共有やチャット、音声会話(ヘッドセットを利用)機能を利用することができる。具体的な機能としては、デスクトップ共有、音声会話(VoIP)、ノイズキャンセラー、ファイル転送、アノテーション、テキストチャット、マウステレポインター、ログ機能などがあり、顧客サポート業務や、社内製品研修、共同での設計作業などでの利用が可能。

必要な導入環境は、ブラウザソフトとインターネット接続のみで最低 56kbps のモデム接続帯域があれば共有作業などの会議がおこなえるという。

初期加入料は、80万円(1同時接続オペレーターライセンスを含む)、1オペレーター追加ライセンス設定料(一時費用)として、10万円、月額費用5万円(1同時接続オペレーター当たり)となっている。

6月24日都内カナダ大使館において、「ナムザック Web コラボレーション・フォーラム」が開催され、開発元であるカナダ Namzak Lab 社の CEO であり、カーネギーメロン大学ソフトウェア工学研究所上席研究員である、Rick Kazman 氏の講演や国内や中国と接続したデモが行われた。

その中で、同氏は、WebArrow の優位性について、導入のしやすさ、ASP サービスとの連携、API のサポート、セキュリティの強度、ファイヤーウォールなどを挙げ、「セキュリティについては、192ビットに対応しており、e コマースや競合他社が使用している128ビットよりもより強固なセキュリティレベルを提供しているが、ソフトウェアのパフォーマンスの低下はない。また、価格的にもより競合他社よりも廉価に導入できる。」と自負する。

また、米国 GSA (General Services Administration) 認可を取得し、今後は、連邦政府機関などへの WebArrow の販売が可能になったという。米連邦政府は世界でも最大の IT 予算を持ちビジネス的に非常に価値のある市場と見る。

現在英語と日本語に対応しているが、現在実験的にフランス語と中国語の開発を行っているという。

また、ウェブ市場動向についても言及し、フロスト&サリバンの統計市場を引用(ウェブ会議市場は今後5億USDから2008年には200億USDへ市場拡大)しながら、既存の電気通信事業者などでウェブ会議サービスを付加価値として提供するという動きをカナダの例などを挙げて説明し、「5年後電話は過去の物(a thing of the past)となる。」と予想する。今後ウェブ会議が時間の効率的な利用が可能という点や出張費用等のコスト削減の観点から導入が進むと見込む。

さらに、今後のロードマップについては、データベースとの連携、OpenGL のサポート、非同期&同期通信の統合、MSN メッセンジャーとの連携、医療用の高解像度写真などの共有、テレビ会議機能のサポートなどが考えられていると同氏は説明した。(WebArrow 関連:CNAレポート・ジャパン Vol.5 No.9 2003年5月15日号)

■低価格テレビ会議サービス、よんでんメディアネットワークス

よんでんメディアネットワークス(香川県高松市)は、インターネット上に設けたバーチャル会議室にアクセスするだけで、テレビ会議が行えるシステムを独自に開発。「フラッシュライブコミュニケーションサービス」としてサービスを開始する。

このサービスは、同社に設置された専用のサーバーを利用するため、ユーザー側には別途サーバー設置や専用の機器、ソフト等が不要。パソコン、インターネット環境、ウェブカメラ、ヘッドセットがあれば簡単に会議が行える。

また機能としては、ホワイトボード機能、チャット機能、共有ファイル機能、掲示板機能などがあり、それら使った遠隔地間の協同作業が行える。会議室のデザイン、レイアウトの変更が自由に行え、ユーザーのホームページに組み込むことが可能。

一会議室・月額使用料(標準プラン:5ID付)は、17,850円まで5人まで同時に利用することができ、定額なため利用時間に制限がない。

■アズジェント、SIP テレビ電話パック販売開始

セキュリティソリューションの提供を行う、アズジェント(東京都中央区)は、SIP に対応したIPテレビ電話「Applico MoIP ビデオ電話パック」を6月10日より販売開始した。同パックは、同社米国子会社である Applico Security 社の「Applico MoIP スイッチ」の技術を利用したもので、SIP サーバー(5ユーザーライセンス)、ブランチ用装置、SIP テレビ電話(2台)がセットになっている。(SIP サーバー:ASA205、ブランチ用装置:ASA5、SIP テレビ電話:Vizufon)

同パックは、SIP ユーザーライセンス、SIP 電話の追加、あるいは、ブランチ用装置をSIPサーバーにアップグレードが可能。VPN 機能も用意し、今後リリース予定の多拠点間ビデオ会議システムへの拡張にも対応する。

さらに、テレビ電話機能だけでなく、Windows Messenger や専用クライアントソフト(リリース予定)を利用することにより、パソコン間のインスタントメッセージ、ホワイトボード、アプリケーション共有なども行える。

「Applico MoIP ビデオ電話パック」の定価は、36万8千円(税別)。販売目標は、初年度1000セットを目指す。

* MoIPは、Multimedia Over Internet Protocol の略。

■ 楽墨堂、インターネットテレビ会議システム「LiM Version 3.2」今年2月リリース

楽墨堂(京都府相楽郡)は、PC 向けインターネットテレビ会議システム「LiM Version 3.2」を今年の2月から販売している。サーバーソフトとクライアントソフトで動作する。LiM Version 3.2 は、Windows XP や 2000 を搭載し、128kbps 以上のインターネット回線に接続されたパソコンに対応。基本セットモデルで最大 10 人が同時に会議をおこなえる。

また、映像高速処理、Web ボード機能アップ、CPU 負荷に応じた各種自動調整機能等により、不安定な回線状態でも、参加者間の通信速度がそれぞれ違っても、動画や音声をスムーズに送受信できる。

特長としては、手書きマーカー機能付き Web ボード、質問表示・回答自動統計グラフ、QA カタログエディタ(資料作成のための編集支援ツール)、暗号化機能、帯域に応じたメディア配信レート調整機能、NAT 環境に対応。

LiM 基本セットパッケージには、CD-ROM が2枚とサーバー用プロテクタ1個が付くが、CD-ROM には、LiM-Server-10 Ver.3.2、LiM-Client Ver.3.2、QA カタログエディタが入っている。価格は 48 万円(税別)だが、クライアントソフトは、無料でコピーができる。

同社では、テスト用 LiM サーバーを公開している。同社サイトよりクライアントソフトをダウンロードしてテストサーバーを利用できる。

■ 中央ヨーロッパ市場レポート-独VTRON社

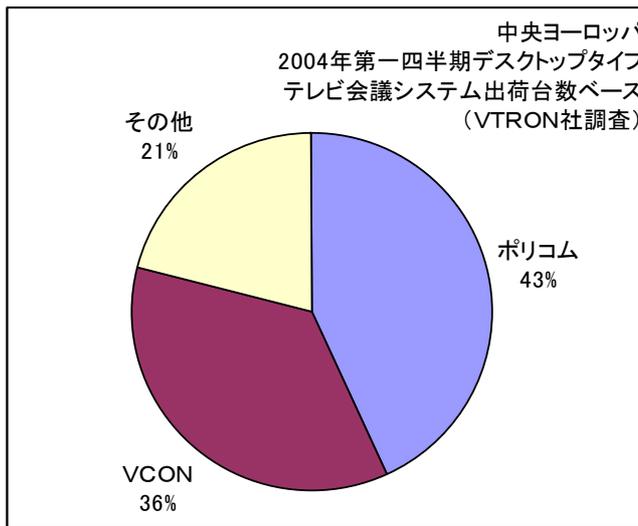
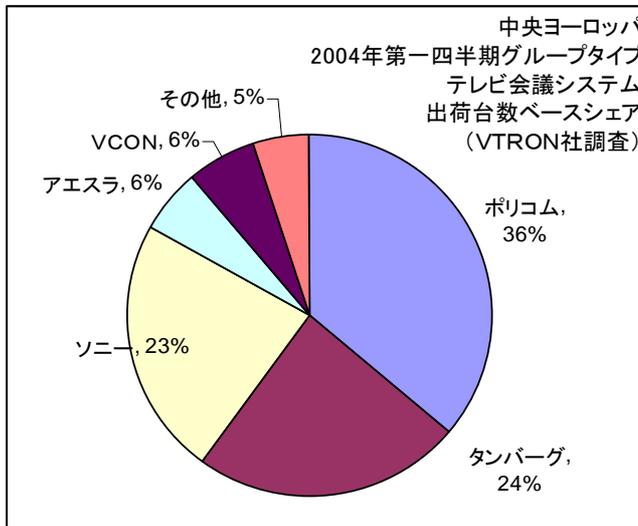


中央ヨーロッパ(ドイツ・オーストリア・スイス)

の 2004 年第一四半期(1 月-3 月期)の各社シェアの状況はグラフの通り。独 VTRON 社の Ant Bilsev 氏によると、「今年のドイツ市場の全体的な出だしは低調で、第一四半期は各社ともあまり良い結果ではなかったが、第二四半期に期待したい。」との CANレポート・ジャパン編集長橋本に対してコメントしている。

グループタイプのテレビ会議市場(ルームタイプ、セットアップタイプなど)今回の市場数値を簡単にまとめると、ソニーの躍進が大きい。2003 年の第四四半期(10 月-12 月)の

10%から今四半期は、23%になり、タンバークに肉薄するまでにシェアを拡大した。その結果、ポリコム、タンバーク、アエスラ、VCON はそれぞれシェアを若干落としている。



デスクトップ市場に目を転じると、2003 年第 2 四半期では、VCON が 65%、ポリコムが 15%であったが、四半期毎にポリコムの勢いが増し、今四半期ではシェアが逆転した結果となったが、シェア的には拮抗している。

Ant Bilsev, VTRON GmbH ant.bilsev@vtron.de

VTRON 社の Videoconferencing In Europe では、テレビ会議ポータルサイトを開始しました。
<http://www.videokonferenzportal.info/>
 現在はドイツ語ですが、今秋英語ページも完成予定。

ショートニュース

◆米 8x8 社は、1200 万 USD (約 13 億円強) の増資を行う。機関投資家などが1株当たり 2.50US で 480 万の普通株を引き受ける。また、ワラント(新株引受権)を、1株当たり 3USD を 192 万株発行する。増資による資金は、同社が提供する IP 音声電話サービス Packet8 への資金充当などの運転資本として活用する。

◆米 8x8 社は、SIP 対応の IP テレビ電話 DV326 をリリースした。テレビ電話での使用帯域は、84kbps~684kbps。IP 電話では 24kbps の帯域を使用。5 インチ TFT モニター内蔵、外部マイク入力、音声ビデオ IN/OUT、エコーキャンセレーション、Ethernet ポート 2 個、100 名までのアドレス帳、自動応答機能など。価格は、299USD (約 32,500 円)。

◆中国 V2 Technology 社は、ウェブ会議ソリューション「V2 Conference 4」を提供している。導入した中国建設銀行や徐州徴税局などでは組織内のミーティング、トレーニングなどに活用され、既存のテレビ会議との連携した使い方も行っている。日本では、ブイテック(東京都三鷹市)が同システムを販売している。「V2 Conference 4」は、ブイテックのホームページには、TCP/IP、IETF XMPP、H. 323 等に準拠と説明されている。また、同社では同製品の公開カンファレンスを実施中。(V2 関連記事:CNAレポート・ジャパン Vol.5 No.1 2003 年 1 月 15 日号)

◆日立ハイブリットネットワーク(神奈川県横浜市)が販売する、PC ベースのテレビ会議システム「NetCS series」は、SIP と IPv6 をサポートする。今回のサポートにより、IP テレフォニーや業務系ツールなどとの連携強化を進める。「NetCS series IPv6/SIP 版」の特長は、最大 40 拠点間の多地点会議、ウェブブラウザによる簡単な会議予約、データ共有、一般電話接続、拡張性など。最小セットモデル(~4拠点、サーバーとクライアントソフト4本)は、150 万円から(税抜き)

◆米 ACT テレコンファレンシング社は、中国の China Netcom(CNC)社と提携し、CNC を通じて中国本土のユーザーに、ACT 社の電話会議、テレビ会議、ウェブ会議サービスを提供する。「同社アジア太平洋地区のサービス収入は、1997 年から年率 55%で拡大、中国は其中でもっとも急成長している。」と、同社アジア太平洋を統括する Peter Eeles 氏は中国進出の背景をプレスリリースで説明。

◆米クリアワン社は、同社の CEO の辞任を発表し、新 CEO

が就任するまで取締役会において CEO マターを決定する。新たな CEO をこれから探すことになる。クリアワンは、音声会議用の端末やシステム、音響関係の機器などの大手メーカー。

◆イタリアのテレビ会議、電話会議メーカーのアエスラ社は、テレビ会議システム用のソフトウェアバージョン 5.0 を発表。最新のテレビ会議符号化方式 H.264、H.350 のディレクトリーサービス、ユーザーインターフェイスのカスタマイズ化機能などに対応したと発表。AVC8400 コーデック、セッソップタイプの Vega Star Gold や Vega Star Silver-E が対象となる。

◆ サウジアラビアのコンピューター&通信機器メーカー、Jeraisy Computer and Communication Services 社が中国のテレビ会議メーカーZTE 社の BAVO テレビ会議システムシリーズである、ZXMVC8900(H.320/H.323 両対応テレビ会議多地点接続装置)と、ZXMVC4050(テレビ会議端末)とを首都リヤドを含めサウジアラビア国内 5 ヶ所に導入。ZTE 社は、全世界で 2 万台の同社 BAVO テレビ会議システムを販売した経験がある。(ZTE 関連記事:CNAレポート・ジャパン Vol.5 No.1 2003 年 1 月 15 日号)

◆米コンピューネティクス社と米 OneSong 社が新たに戦略的な販売提携を行い、OneSong 社がコンピューネティクス社の製品のリセールを行うことと、コラボレーションシステムとコンピューネティクス社の CONTEX 音声会議システムとの統合を行う。日本では NTT-ME が販売代理店。日本大手企業導入あり。

展示会レポート

ソニープロフェッショナル&ビジネスソリューション 2004

2004 年 5 月 27 日-28 日

プリズムホール(東京ドームシティ内)

<http://www.sony.jp/products/Professional/pbs2004/index.html>



PCS シリーズテレビ会議システムのデモ風景(前頁写真)

先月 5 月 27 日、28 日に都内で開催された、“ソニープロフェッショナル&ビジネスソリューション 2004”では、放送機器関係や AV 機器関係などと合わせ、テレビ会議システムでは、次期新製品(参考出品)を中心に、PCS シリーズ、SIP ソリューション、運営管理ソフト、そしてモニタリング関係の製品及びソリューションの展示などを行っていた。

現在ソニーでは、PCS-1 と、最近国内で発表された、PCS-11 の 2 機種があるが、それに加え、新たにハイエンドタイプのテレビ会議システムと、オールインワンタイプの液晶モニタータイプの2機種を今年秋に市場に投入し、同社のテレビ会議ビジネスの強化を図る計画だ。

PCS-1 で今までローエンドからハイエンドまで各種オプションによる機能追加などで幅広いニーズに対応してきたが、ハイエンドタイプの機種を新たに投入することにより、PCS-1 ではカバーできなかった機能・性能を充実化する。それにより PCS シリーズの競争力を高め、より高度な利用ニーズにも対応する。

また、オールインワンタイプの製品では、デスクトップ環境に焦点を絞り、簡単で利便性を高めたオールインワンタイプの製品設計となっている。ソニーマーケティングによると、性能・機能的には PCS-1 と同等相当となっているという。



ハイエンドタイプテレビ会議システム

具体的な性能機能等については、ハイエンドタイプの機種では、テレビ会議用の帯域については 4Mbps まで対応する。PCS-1 では 2Mbps であったのでその倍になる。さらに、スピードマッチング、多地点接続環境で H,264 のサポート、5 モニター接続サポートなどがある。多地点接続環境では、PCS-1 と同様、6 ヶ所までの同時接続が、2 台を接続してカスケードした場合は、10 台までの多地点接続が行える。

オールインワンタイプのテレビ会議システムだと、20 インチの横長液晶モニター、デジタル PTZ カメラ、スピーカーなどが内蔵。PTZ カメラは、モニター上部に内蔵され、リモートコントロールでカメラ位置をコントロールできる。また、スピーカーについては、モニター下部に隠れた感じで、モニター下部から下に向けて音を吹き出す感じで音を出し、前面からは見えない設計になっている。



オールインワンタイプテレビ会議システム

価格的には、オールインワンタイプが、50 万円から 100 万



円の範囲、ハイエンドタイプが 150 万円から 200 万円の範囲になりそうだが、現時点では参考出品なため実際の製品として出てきた段階で変動する可能性がある。

その他、テレビ会議関係では、今秋リリース予定のテレビ会議端末管理ソフトウェアの展示、

NEC の SIP サーバー、NEC の IP フォン、SIP 対応の PCS シリーズのテレビ会議を組み合わせた SIP ベースのテレビ会議ソリューション (PCS シリーズのテレビ会議端末は今後 SIP に対応する予定)、多地点接続機能を提供するソリューションなどが展示されていた。



運営管理システム

その中で、多地点接続機能を提供するソリューションに



ついてだが、従来の多地点接続機能の考え方とは違う発想で設計されたシステム(写真左)で、拠点数に合わせて写真下部に対向で PCS-1 を搭載する。(白い部分)

従って、この装置を使って 10 拠点で多

点テレビ会議を行う場合、各拠点に 10 台以外に、このラックに収納する 10 台の PCS-1 が必要になる。(写真では縦に収納しているのが見えるかと思う。)それではどのように映像や音声のミキシングを行っているかという点、別途ミキシング装置を使用して、MCU(多地点接続装置)が行う映像音声のミキシング処理を擬似的に実現(エミュレート)する。

ミキシング機能は、今回の展示では他社のメーカーのものを利用していましたが、各種操作は PC 画面から行う。各拠点からの接続は、収納されている対向の PCS-1 が 1 対 1 で接続されているため、実際の多地点接続装置(MCU)に比べ安定的に接続が可能で、どこかの拠点が仮に接続で不具合が生じたとしても、それぞれ 1 対 1 で接続されているため他の接続は影響を直接的に受けることはなく、映像などのク

オリティも多地点接続装置によく見られる処理遅延などが無いため、たとえば映像の切り替えなどの処理が早い。また、障害時の切り分けも行いやすい。

サポートしている拠点数は、128 拠点まで対応している。その倍のテレビ会議システム(コーデックの部分)を購入する必要があるため、コスト的に高くまた、専有するスペースもそれなりのスペースをとると感じではあるが、寧ろ、映像の品質の高さ、処理遅延が低いこと、障害時の切り分けなどが容易などを重視するユーザーにとっては安定性の高いシステムソリューションとなっている。



多地点テレビ会議ソリューション

(終わり)

編集後記

取材をさせていただいたところでまだこのCNAレポート・ジャパンでレポートしていないところがございます。次回以降順次レポートいたします。ご容赦ください。

BCS Tokyo 2004 はお陰様で無事に終了することができました。多数ご来場いただきまして誠にありがとうございました。イベントのレポートは、共同主催者である、VTV ジャパンで作成していただきましたのでよろしければご覧ください。

<http://www.vtv.co.jp/WebData2/news/bcstokyo/semi0406.html> また、7月4日号の週刊東洋経済でBCS Tokyo 2004の報告レポートが掲載される予定です。

CNAレポート・ジャパンでは広告を募集しております。サイトとこのニュースターの広告掲載となります。詳細は下記橋本までお願い致します。

CNA Report Japan(シーエーエーレポート・ジャパン)
編集長 橋本 啓介 k@cna.jp (CNA Report Vol 6. No.10 2004年6月30日号終わり)次号 Vol 6. No.11は、2004年7月15日頃の発行を予定しております。ご購入ありがとうございます。